

特許協力条約

発信人 日本国特許庁 (国際予備審査機関)



出願人代理人

津国 肇

様

あて名

〒 105-0001

東京都港区虎ノ門1丁目22番12号
SVAX TSビル 津国特許事務所

PCT

国際予備審査機関の見解書

(法第13条)

[PCT規則66]

29. 6. 2004

発送日
(日.月.年)出願人又は代理人
の書類記号

FP2612PCT

応答期間

上記発送日から 2か月以内

国際出願番号
PCT/JP03/11873 国際出願日
(日.月.年) 18.09.2003 優先日
(日.月.年) 18.09.2002

国際特許分類 (IPC) Int. C17C08G73/10, C08F299/02

出願人 (氏名又は名称)

井上 進介

1. 国際調査機関の作成した見解書は、国際予備審査機関の見解書と みなされる。
 みなされない。

2. この 1 回目の見解書は、次の内容を含む。

第I欄 見解の基礎
 第II欄 優先権
 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
 第IV欄 発明の単一性の欠如
 第V欄 法第13条 (PCT規則66.2(a)(ii)) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 第VI欄 ある種の引用文献
 第VII欄 国際出願の不備
 第VIII欄 国際出願に対する意見

3. 出願人は、この見解書に応答することが求められる。
 いつ? 上記応答期間を参照すること。この応答期間に間に合わないときは、出願人は、法第13条 (PCT規則66.2(e)) に規定するとおり、その期間の経過前に国際予備審査機関に期間延長を請求することができる。ただし、期間延長が認められるのは合理的な理由があり、かつスケジュールに余裕がある場合に限られることに注意されたい。

どのように? 法第13条 (PCT規則66.3) の規定に従い、答弁書及び必要な場合には、補正書を提出する。補正書の様式及び言語については、法施行規則第62条 (PCT規則66.8及び66.9) を参照すること。

なお 補正書を提出する追加の機会については、法施行規則第61条の2 (PCT規則66.4) を参照すること。補正書及び/又は答弁書の審査官による考慮については、PCT規則66.4の2を参照すること。審査官との非公式の連絡については、PCT規則66.6を参照すること。

応答がないときは、国際予備審査報告は、この見解書に基づき作成される。

4. 特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第2章) 作成の最終期限は、
 PCT規則69.2の規定により 18.01.2005 である。

名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 富士 良宏	4 J	8830
	電話番号 03-3581-1101 内線 6829		

第I欄 見解の基礎

1. この見解は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

この見解書は、_____語による翻訳文を基礎とした。
 それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。
 PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
 PCT規則12.4にいう国際公開
 PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この見解書は下記の出願書類に基づいて作成された。（法第6条（PCT14条）の規定に基づく命令に応答するため提出された差替え用紙は、この見解書において「出願時」とする。）

出願時の国際出願書類

明細書

第 1-18 ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 1, 5-20 項、01.04.2004 付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの

配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. 補正により、下記の書類が削除された。

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 2-4 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表（具体的に記載すること）
 配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

4. この見解書は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。（PCT規則70.2(c)）

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 第 _____ ページ/図
 配列表（具体的に記載すること）
 配列表に関するテーブル（具体的に記載すること） _____

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第13条（PCT規則66.2(a)(ii))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1, 9-13 5-8, 14-20	有 無
進歩性 (I S)	請求の範囲 1, 5-20	有 無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1, 5-20	有 無

2. 文献及び説明

③ 文献1：JP 2001-323062 A (三井化学株式会社) 2001. 11. 20、特許請求の範囲、【0035】、【0066】、【0076】、実施例7
 ④ 文献2：JP 2001-323064 A (三井化学株式会社) 2001. 11. 20、全文
 ⑤ 文献3：JP 2001-323065 A (三井化学株式会社) 2001. 11. 20、全文
 ⑥ 文献4：JP 2001-323066 A (三井化学株式会社) 2001. 11. 20、全文
 ⑦ 文献5：JP 2001-323067 A (三井化学株式会社) 2001. 11. 20、全文
 ⑧ 文献6：US 4048142 A (General Electric Company) 1977. 09. 13、特許請求の範囲

請求の範囲5-8及び14-20に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1-5に記載されているので、新規性、進歩性を有しない。文献1-5には、芳香族テトラカルボン酸二無水物と、芳香族環を3個以上有するジアミンとを重合させて得られるポリイミド又はイミドオリゴマーが記載されており、また、これに共重合成分として、本出願において式(I)として表される特定の芳香族テトラカルボン酸二無水物を使用する点も記載されている。さらに、文献1-5には、本出願において式(IV)として表される分子内に三重結合を有するジカルボン酸二無水物を封止剤として使用する点や、ポリイミド又はイミドオリゴマーを含有する溶液又は懸濁液並びにその熱処理物などの点も記載されている。

請求の範囲1及び9-13に係る発明は、国際調査報告で引用された文献1-6により進歩性を有しない。文献6に記載の通り、本出願において式(I)として表される特定の芳香族テトラカルボン酸二無水物を単独で用いたポリイミド又はイミドオリゴマーは、溶媒可溶性や成形性に優れた樹脂として良く知られている。

第VI欄 ある種の引用文献

1. ある種の公表された文書(PCT規則70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日. 月. 年)	出願日 (日. 月. 年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日. 月. 年)
JP 2003-213130 A (E, X)	30. 07. 2003	25. 01. 2002	
JP 2003-155343 A (E, X)	27. 05. 2003	19. 11. 2001	

2. 書面による開示以外の開示(PCT規則70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日. 月. 年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日. 月. 年)